ニホンジカの生息頭数適正化について

前回のWG（令和６年10月21日)以降、対馬市や内閣府とメール、電話により協議を行った結果、必ずしも硝酸塩を使用した捕獲方法にはこだわらないということを確認した。このため、島嶼での有効なシカの捕獲について、環境省からはこれまでの事例や専門家への聞き取りを踏まえ、技術的な助言等を行うということとなった。

令和6年12月24日　第65回国家戦略特別区域諮問会議の内容

〇二ホンジカの生息頭数適正化

長崎県対馬市においては、適正な生息頭数の 10 倍以上に繁殖したニホンジカによって、農作物への被害のみならず、下層植生の衰退による災害誘発懸念や、希少植物消失など影響は深刻かつ多岐にわたっている。ニホンジカの生息頭数の増加に伴う影響の増大への対応は全国的な課題であり、人手不足など地域の深刻な実情を踏まえつつ、環境省は今後速やかに、対馬市に対し、全国で実施しているシカ捕獲の知見のうち、現地に適した捕獲方法を提案するほか、対策の進捗を関係者間で管理しつつ、ニホンジカの捕獲方法についての適切な助言や長崎県を通じた交付金による捕獲など、生息頭数の適正化に向けた対馬市の実情を踏まえた実効的な支援を行う。

ニホンジカの生息頭数適正化

- 長崎県対馬市においては、適正な生息頭数の10倍以上に繁殖したニホンジカによって、農作物への被害のみならず、下層植生の衰退による災害誘発懸念や、希少植物消失など影響は深刻かつ多岐にわたっている。ニホンジカの生息頭数の増加に伴う影響の増大への対応は全国的な課題であり、人手不足など地域の深刻な実情を踏まえつつ、環境省は今後速やかに、対馬市に対し、全国で実施しているシカ捕獲の知見のうち、現地に適した捕獲方法を提案するほか、対策の進捗を関係者間で管理しつつ、ニホンジカの捕獲方法についての適切な助言や長崎県を通じた交付金による捕獲など、生息頭数の適正化に向けた対馬市の実情を踏まえた実効的な支援を行う。

規制改革の内容

特例措置前

- **ニホンジカによる生態系や農林水産業等への影響の増大への対応は全国的な課題**であるが、**生息頭数の目標未達成、達成期限を延期。**
- **対馬市においても、下層植生の衰退による土砂災害等の災害誘発の懸念など、深刻かつ多岐にわたる影響。**
- 市としても対策を講じているが、適正頭数の10倍以上となっており、**既存の対策では限界**。

＜参考：環境省及び農林水産省における捕獲目標＞
平成23年度：約310万頭 → 令和10年度：約155万頭
（本州以南を見てもニホンジカの生息頭数は令和３年度に約222万頭（中央値）であり、令和5年度の半減目標達成は難しく、５年延期。）

措置の検討

- 小規模、島で隣接市町村との連携が困難など、**地域の実情を踏まえ、現地に適した捕獲方法**を提案する等、**実効的な支援を行う**。

※なお、例えば硝酸塩による捕獲の実施は危険猟法のため審査基準を満たす必要があり安全性等を目的に設定しているため規制緩和はできない。

効　果

- **既存の取組ではできていない生息頭数の適正化に向けて、さらなる取組を推進**できる。これにより、**生息頭数増大による深刻な影響の軽減を図る**ことができる。

規制改革の概要

災害誘発懸念

農作物への被害

人手不足

環境省は今後速やかに、対馬市に対し、
- 全国で実施しているシカ捕獲の知見のうち、現地に適した捕獲方法の提案
- ニホンジカの捕獲方法についての適切な助言
- 長崎県を通じた交付金による捕獲

など、**生息頭数の適正化に向け対馬市の実情を踏まえた実効的な支援**を行う。

生息頭数増大による影響の軽減につながる実効的な取組の推進。

（進捗）現地に適した捕獲方法の提案等について

環境省

対馬市、長崎県、九州地方環境事務所に以下の情報を共有済み

- 専門家に確認し、「簡易な施設」で「あまり人力を必要とせず、」「効率的に捕獲できる」シカの捕獲方法はないものの、現実的に考えられる手法として、囲いワナ＋追い込み猟が挙げられた。

- 具体的には、専門家からは、島等での捕獲について、北海道で開発したニホンジカ捕獲方法（ニホンジカ捕獲ハンドブック）の紹介があり、大量捕獲は、餌付けで誘引できるかがポイント等について紹介
本ハンドブックの中で、水上捕獲の手法（梶ら1991）についても記載。
ハンドブックは以下のURLで参照可能。
www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/documents/1st-chukiseika-17.pdf

- 上記のように、対馬の地形や既存の構造物を利用した追い込み猟などが比較的大量捕獲を見込める方法として検討の余地があるのではないかとのことで、プロデータバンクの人材派遣などについても紹介
プロデータバンク（専門家を現地に招き、現地をみてもらったうえで、有効な捕獲手法のアドバイスをもらう制度。講師等への謝金と旅費相当額を環境省事業でカバー）
https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort1/effort1.html

- 交付金による他の捕獲促進事業事例（ドローン、ICT活用等）についても紹介

（進捗）対応状況について

- 交付金については長崎県に対し、対馬市から相談があれば検討いただけるよう相談済み。
- すでに交付金等により対馬でのシカ捕獲は行われており、環境省九州地方環境事務所、長崎県、対馬市自然共生課で開催している対馬ニホンジカ対策戦略会議や戦略会議WGなどで検討されている状況。
- 長崎県からは以下のように農水省の交付金でも別途取組が実施されている状況と聞いている。

長崎県からの聞き取り

- 市の担当部署では、もともと銃猟、ドローンでの追い込みなどにも取り組み、更に追い込み猟に特化した手法について、以前から農水省の交付金の活用を念頭に検討されている状況。
- 助言を踏まえて引き続き効果的な捕獲手法を検討していると聞いている。